
冬のこと

小藤 絹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬のこと

【Zマーク】

Z6300Z

【作者名】

小藤 絹

【あらすじ】

処女作品。

とりあえずの作品。

こんなに悲しい作品が処女作品だなんて（笑）

今、悩んでいることをぶつけてもいいですか？

このままいいのか。

このまま、新しい季節を迎えてもいいのか。

もう、彼女の正面の顔を忘れてしまった。
もう、横顔しか覚えていない。

これは恋じゃないかもしれない。
ただの執着かもしれない。

毎朝、顔を合わす度に後悔している。

もっと笑顔でいさつすればよかつた。
もっとさわやかにいさつすればよかつた。
話しかければよかつた。

振り向いてもらいたいのか。

僕に笑いかけてくれるだけでいいはずだったのに。

いつからこんなに強欲になつたのか。

あの日から僕は変わった。

僕に魅力がないと気付かされて。
変わったはずなのに。

あの口と回じパートを着ていると時間が戻つてしまつ。

一瞬の出来事だったのに、彼女の香りがする気がする。優しい香りが。

気を使わせて申し訳ないと思いながら、彼女の優しさに甘えたときもあった。

しつこくメールしてみたりもしたけど。

他愛もない話しがしたくて電話してみたりもしたけど。

あの時より前の声は戻らない。

僕が好きだった柔らかい声はもつ硬くなってしまった。

もつやめようか。

こんなに早く彼女を諦めようとするなんて思つてなかつた。

もつと好きでいたい。

好きでいさせてほしいんだ。

だけど、夜が美しい季節は、こんなにも明るい夜は、耐えられないかもしれない。

僕は弱いのか。

もう一度思い出してから忘れない。

彼女のまっすぐな目、優しい香り、柔らかい声を。

メリークリスマス

(後書き)

はじめまして。

読んでいただきありがとうございました。

最近、めっきり小説に触れなくなつた私。

とりあえず簡単に作品を書いてみたくなりました。

私事ですが、最近片思いに悩んでおりまして。

諦めるべきか、想い続けるべきか・・・

このもやもやをみなさんへぶつけました。はい。

みなさんは素敵なクリスマスをお過ごしくださいね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6300z/>

冬のこと

2011年12月21日01時52分発行